

CSOラーニング制度 修了レポート

氏名 : 深石 梨歩
派遣先CSO名 : 環境エネルギー政策研究所
大学名・学年 : 東洋大学・3年

1. コミュニティパワー

この8か月間はとても早く、充実したものになりました。長期のインターンは最後まで頑張れるか、インターン先で上手くやっていけるのか、とても不安でした。しかしそれ以上に、再生可能エネルギーの推進活動の最前線でインターンが出来ることが楽しみでした。私は今まで、自分から進んで行動や発言をするのが苦手で、それを少しでも改善させるために、自分の興味分野で活動が出来たらと思い、インターン活動を始めました。

私は、再生可能エネルギーは企業が事業としてメガソーラーや風車を建てるのがほとんどで、それが一番良い方法なのだと考えていました。また、それが脱原発につながる手っ取り早い方法なのだと信じていました。しかし実際に様々なイベントや調査を経て、考えが変わりました。再生可能エネルギーは大型発電方式よりも、地域分散型でこそ有効活用が出来ます。天候が安定し、日射量の多い地域は太陽光発電、風の強い地域は風力発電、火山など地下の活動が活発であれば地熱発電、林業などが盛んであればバイオマスなど、地域の資源によって活用できるものが異なります。また、それらを運営・管理・使用するのは地域住民であることが望ましいのです。それは、よりエネルギーを身近に感じ、その大切さを知ることが出来るため、そして発電の利益を地域に還元することが出来るからです。地域主導で活用することで、地域の活性化にも役立ちます。また、実際に再生可能エネルギー100%のサムソ島のような事例も存在します。このようなコミュニティ単位での活動の事例をイベントで多く見る機会もあり、とても貴重な体験となりました。また、コミュニティパワーの三原則というものがあります。【1. 地域の利害関係者がプロジェクトの大半、もしくは全てを所有していること 2. プロジェクトの意思決定はコミュニティの基礎を置く組織によって行われる 3. 社会的・経済的便益の多数もしくは全ては地域に分配される】以上がコミュニティパワーの三原則です。このような原則が考えられていること、再生可能エネルギーの活用をコミュニティ単位で考えることなど、インターン前には知らなかったことをたくさん吸収することが出来ました。私の中で、再生可能エネルギーへの興味がより膨らみました。

私は今まで、何事にも消極的で、発言が苦手な人間でした。社会に興味すら抱いていませんでした。それが福島第一原発の事故を見て、その後の政府の姿勢を見て、疑問や興味、同時に不安も抱きました。原発は放射性廃棄物を生み出し続け、その最終処理の方法も確立していません。日本は地震大国です。安全神話説も崩れ去ってもなお、再稼働を主張し続けています。ひとつひとつ丁寧に考えていけば、原発を使うという選択肢は生まれてこないはずです。そこに疑問を抱き、社会問題にも興味を持つようになりました。それらの諸問題を知るうちに、これから変えていけるのは私たちのような世代な

のだと感じるようになりました。そこから、興味分野に積極的にかかわるようにし、インターンの参加も決めました。以前の私であれば、申し込むことはなかったでしょう。

様々なインターン生と触れ合ううちに、少しずつ自分の意見を言えるようになりました。私は人前で話すことがとても苦手で、避けてきました。インターン活動や様々な人と関わるうちに、このように少しずつ意見が言えるようになったのは、私にとってとても大きな収穫でした。貴重な機会を与えていただいて、心から感謝しています。

2. 生涯、環境問題に携わっていきます

私が最も興味のある問題はエネルギー問題ですが、それを仕事として関わる事が出来るかどうかは断言できません。しかし、温暖化や砂漠化、資源の枯渇、廃棄物問題、公害、大気汚染など、山積みになっている問題には携わっていたいと考えています。少しでも住みやすい日本にしていきたいです。どの国よりも環境に配慮した自然豊かな日本にしていくために、イベントや講演会、仕事など様々な立場から関わっていきます。また、関わるだけでなく身の回りの人間も巻き込んでいけるような人間に、私はなります。